

3つの約束

① 確かな原料で、
こだわりの配合

すべての原料に品質基準を設け、クリアした原料のみを使用。培養土の開発では植物ごとに研究を重ねて、独自のレシピを作り上げます。

② すくすく育つか、
しっかり確認



開発した培養土は研究室と試験用ハウスで発芽と生育をしっかり確認。商品は作るときに品質をチェックしてから出荷します。

③ 責任をもって、
サンプル保管



培養土は決められた期間、出荷したすべての製品サンプルを研究室で保管。お客さまからのご相談やお問合せに、迅速に対応します。

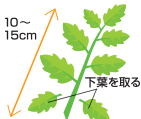
さし木(芽)のコツ!



- 枝さし・・・枝の一部を用土にさして苗を育てる方法。若い枝の頂芽を使います。
- 茎さし・・・茎の一部を用土にさして苗を育てる方法。若い茎頂を使います。
- 葉さし・・・1枚または1枚の葉を切り分けて用土にさして苗を育てる方法。さし葉は切り取り後、すぐ使用してください。

さし穂づくり

〈木本類〉

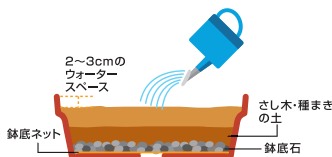


〈草本類〉



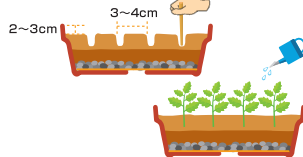
一般に木本類のさし穂の長さは10～15cmで草本類のさし穂の長さは7～8cmです。さし穂はよく切れる刃物で斜め切りにして1～2時間水あげをします。サボテン・多肉植物などは水あげをせず、日陰でさし口を乾かします。

さし床の準備



浅めの鉢やトレーを用意します(鉢底があいているもの)。鉢の場合は鉢底ネットを敷き、2～3cmのウォータースペースを残して、培養土を入れます。培養土全体に水やりをして落ち着かせます。

さし方



枝さし、茎さしはさし床に竹ばしなどで穴をあけ、葉さしの場合は葉に合わせて溝をつくり、下部を1/3さし込みます。さし込んだ後、根元を指先で軽く押さへ、安定させた後、静かに水やりをします。(さし木後は、直射日光を避けてください。)

種まきのコツ!

まき方は種の大きさに応じて決めます。



ばらまき(微粒の種)



培養土に水やりをして落ち着かせます。ハガキなどに種をせ、平均にまいていきます。覆土をする場合は目の細かいふるいを通してかけます。まいた後の水やりはスプレーでかけるか箱に水を張って底面給水をし、新聞紙をかけて湿度を保ちます。

ポイント

植物によって、光を好むもの(好光性種子)と光を好まないもの(嫌光性種子)があるので注意しましょう。好光性種子は覆土をしない(もしくはごく薄くする)ように、嫌光性種子はしっかり覆土するようにします。

大粒種子、
移植を嫌う
種類

アサガオ、オシロイバナ、ケイトウ、
スイートピー、ナス、タチアオイ、
ヘチマ、ルピナスなど

すじまき(小～中粒の種)



培養土に水やりをして落ち着かせます。約5mm間隔で板などを使って浅い溝をつくり、溝の中に適当な間隔をあけて種をまいていきます。覆土は、種の上にふるいを使って軽くかけます。水やりは静かにやります。

微粒種子

アゲラタム、インパチェンス、
コリウス、キンギョソウ、
デージー、ペゴニア、ペチュニア、
マツバボタン、ロベリアなど

点まき(大粒の種)



培養土に水やりをして落ち着かせます。浅いくぼみをつくり、その中に種を入れます。上から培養土を覆せて、静かに水やりをします。三粒まきの場合は苗が出揃ったところで良い苗を一本残し、他は間引きをします。

好光性種子

インパチェンス、キンギョソウ、
コスモス、西洋オダマキ、ダリア、
トリアペゴニア、ロベリアなど

商品名	さし木・種まきの土
主要配合原料	火山性砂礫、ピートモス、堆肥、 パーライト、ゼオライト など ※品質向上のために変更する場合があります。 ご了承ください。
pH	6.0±0.5
肥料配合の有無	無

● 乳児・幼児の手に届かない場所に保管してください。誤って口に入れたり、空気を吸ったり、かみたりしないようにしてください。
● 腐食性液体などとの接触下になるとコケやカビが発生することがありますが、品質の影響はありません。安心してご利用ください。
● 前の古いラベルがある方は、手袋等をつけて作業を行ってください。



ごみに出すときは
自治体の区分に
したがってください。



FOREX 森産業株式会社

フリーダイヤル: 0120-133191
Eメール: forex@forex-mori.com
ホームページ: <http://www.forex-mori.com/tucchi>
万一品質に不具合がありました時は、上記フリーダイヤル、Eメールまでお問い合わせください。

さし木・種まきの土 5ℓ

